

江木東前沖遺跡

城東土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

2018

高崎市教育委員会

序

高崎市は、古来より関東と信越をつなぐ交通の要衝に位置する人口約37万5千人の中核市です。

本市では平成29年10月に、特別史跡である山上碑、多胡碑、金井沢碑の上野三碑が、ユネスコ「世界の記憶」に登録され、以前にも増して市内外より多くの見学者が訪れ、文化財への興味が高まっています。

本書で報告する江木東前沖遺跡は、城東土地区画整理事業地内における道路築造に伴って発見された埋蔵文化財であり、平成29年4月に発掘調査を実施したものです。

限られた範囲の調査ではありましたが、古代この地において、人々が生活していたことを示す成果をあげることができました。本報告書はこの成果について文化財調査報告書第401集としてまとめたものです。

結びに、発掘調査および報告書刊行にあたりご協力をいただきました関係機関並びに関係者の皆様に心から感謝申し上げ、序といたします。

平成30年3月

高崎市教育委員会

教育長 飯野眞幸

例言

1. 本書は城東土地区画整理事業に伴い実施した「江木東前沖遺跡」の発掘調査報告書である。
2. 遺跡番号・所在地ならびに事業内容、事業主体は以下のとおりである。

遺跡番号・遺跡名	693 江木東前沖遺跡
所在地	高崎市江木町字東前沖14
事業内容	城東土地区画整理事業
事業主体	高崎市

3. 発掘調査および整理作業は高崎市教育委員会事務局教育部文化財保護課埋蔵文化財担当が行った。発掘調査体制は次のとおりである。

教育長 飯野 真幸

教育部長 小見 幸雄

文化財保護課長 角田 真也（平成27年度工事立会）

埋蔵文化財担当係長 神澤 久幸・矢島 浩

埋蔵文化財庶務担当 岡田 清香・加藤 志津代・金井 英一・金山 悟

埋蔵文化財調査担当 金子 智一・田辺 芳昭

4. 発掘調査および整理期間は以下のとおりである。

発掘調査期間 平成29年4月1日～平成29年4月19日

整理期間 平成29年4月1日～平成30年3月31日

5. 本書の執筆は、第1、3、4、5を金子、第2を田辺が行った。

6. 遺構・遺物出土状況の写真撮影は金子が行った。

7. 國版等の作成は金子の指示のもと補助員が実施した。

8. 発掘調査における表土掘削及び埋戻し作業は(株)井ノ上が実施した。

9. 遺構平面測量図の作成は(株)測研に委託した。

10. 調査により出土した遺物や記録図面、写真類は高崎市教育委員会文化財保護課で保管している。

11. 発掘調査にあたり、地元関係者および関係機関、所管部署にご協力を頂いた。

12. 発掘調査および整理作業には多くの補助員にご尽力をいただいた。記して感謝する。

凡例

1. 本書に使用した地図は、1/2500高崎市都市計画図をもとに作成した。
2. 本書中の座標値は平面直角座標第IX系国家座標(世界測地系)をもち、方位は同座標北(G.N.)である。断面図に付した標高はT.P.を基準とした。
3. 本書中の國版縮尺は、各図に表示している。
4. 土層・遺物の色調および土壤の注記は、農林水産省農林水産技術会議事務局および(財)日本色彩研究所監修『新版標準土色帖』を使用した。

5. 遺構名称および遺構番号は、調査時に付したものを使用し、遺構の略号は次のものを使用した。
SK=土壌
6. 火山噴出物には次の略号を使用した。
浅間B軽石: A s - B 1 1 0 8 (嘉祥三・天仁元) 年
7. 遺物観察表の数値は、以下のとおり表記した。
数値のみ: 完存値 () : 復元による推定値 [] : 欠損状態の残存値
8. 遺物番号は、本書に掲載した遺物に対して連続した番号を付し、本文・遺物観察表・写真図版と一致させた。

目次

序

例言・凡例・目次

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の地理的、歴史的環境	
(1) 地理的環境	1
(2) 歴史的環境	1
第3章 調査の方法	
(1) 調査の方法	2
(2) 基本土層	2
第4章 検出した遺構、遺物	
(1) 遺構、遺物の概要	2
(2) 主な遺構	2
(3) 主な遺物	2
(4)まとめ	2

挿図目次

第1図 周辺の遺跡図	1
第2図 遺構全体図	3
第3図 遺構断面図	4
第4図 遺物実測図	5

表目次

第1表 柱穴一覧	2
第2表 遺物観察表	5

第1章 調査に至る経緯

平成28年6月10日付で、周知の埋蔵文化財包蔵地で城東土地区画整理事業に伴う水路築造工事の届け出が区画整理課からあった。

工事の進ちょくにあわせ、6月14日から順次立会調査を行ったところ、今回該当するか所で遺構が存在する可能性があることがわかつたため、区画整理課と文化財保護課協議のうえ、道路築造時に本調査を実施することとなった。

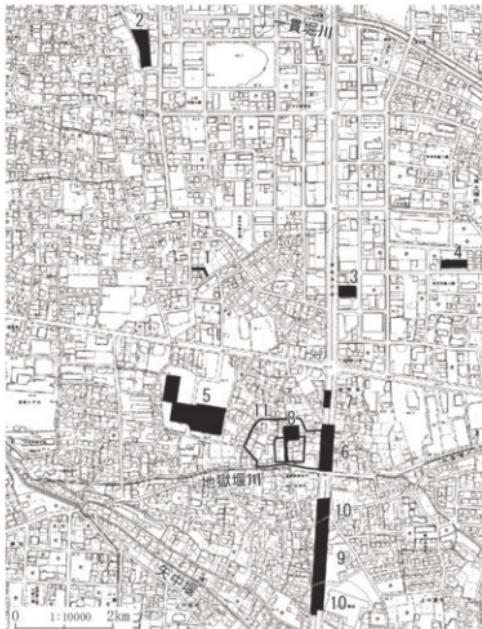
第2章 遺跡の地理的、歴史的環境

(1) 地理的環境

江木東前沖遺跡(以下本遺跡)は、高崎市街地の北東、井野川右岸にひらけた沖積地の標高92m付近に位置。本遺跡の北には、水路として整備された一貫堀川が南東流し、南には同じく水路として整備された長野堰支流の地獄堰が概ね東に流れる。周辺は市街化以前の地形がわかりにくいが、概ね南東方向を指向する複数の微高地や低地が入り組んで存在し、本遺跡は微高地から低地への変換域に所在するようである。

(2) 歴史的環境

本遺跡北側から東側の低地では江木北土井遺跡(2)や高闘北沖遺跡(3)、高闘塚田遺跡(4)の調査結果などから、いわゆるAs-B下水田跡が広範囲に存在することが知られる。一方、南側から南東にかけての微高地上では、弥生時代中期～平安時代にかけて居住域が営まれ、高闘高根遺跡(5)や高闘堰村遺跡(6)、高闘東沖・村前Ⅲ遺跡(7)、高闘村前遺跡(9)では、古墳時代を主体とする竪穴建物等遺構が確認されている。なお、高闘堰村遺跡及び高闘東沖・村前Ⅲ遺跡では弥生中期後半の居住域及び環濠の可能性がある構跡が調査されている。また、長野堰から分流する矢中堰や地獄堰を中心に城館址が多数みられ、本遺跡南東には、地獄堰を濠に取り込む「高闘屋敷」(11)が所在する。「高闘屋敷」は、高闘堰村遺跡2(8)で濠の一部が調査され、構築時期を15世紀としている。



- 1 江木東前沖遺跡
- 2 江木北土井遺跡
- 3 高闘北沖遺跡
- 4 高闘塚田遺跡
- 5 高闘高根遺跡
- 6 高闘堰村遺跡
- 7 高闘東沖・村前Ⅲ遺跡
- 8 高闘堰村2遺跡
- 9 高闘村前遺跡
- 10 高闘村前Ⅱ遺跡
- 11 高闘屋敷

第1図 周辺の遺跡図

第3章 調査の方法

(1) 調査の方法

土地区画整理事業によって計画された道路予定地のうち、遺構の存在が見込まれた西方部分について調査を実施することとなった。調査にあたっては表土掘削を重機により掘削し、その後黒色土の上面で人力により遺構の確認作業を行った。

遺構名称、番号は、確認できたものから順次付し、必要な都度写真撮影、土層断面図を作成し、その後に遺構測量を行った。

(2) 基本土層

本調査区の基本土層は北壁C（第3図）にあるとおり50、60センチ堆積する現耕作土と直下の擾乱層があり、その下に黒色土層がある。この黒色土にはAs-B以前の浅間山及び榛名山の火山噴出物は確認できなかった。

第4章 検出した遺構、遺物

(1) 遺構、遺物の概要

本遺跡では、As-Bを混入する土壤の下に広がる黒色土層の上面で7基の柱穴（Pit）ほかが確認された。遺物の出土も同じく黒色土層上面である。

(2) 主な遺構

本遺跡では柱穴7基、土壤1基、溝1条が確認された。これらは、いずれもAs-B混土層の直下にある黒色土層上面で確認できたものであるが、遺構内からの遺物がなかったため、それらが構築された時期は不明である。ただし、遺構の覆土にはAs-Bの明確な混入を認めることができないため、その降下以前には埋没していたものと考えられる。

第1表 柱穴一覧（直径、深さ　；単位cm　いずれも確認面からのもの）

Pit1	30、30	Pit2	38、23	Pit3	30、18
Pit4	20、12	Pit5	30、18	Pit6	34、26
Pit7	28、22				

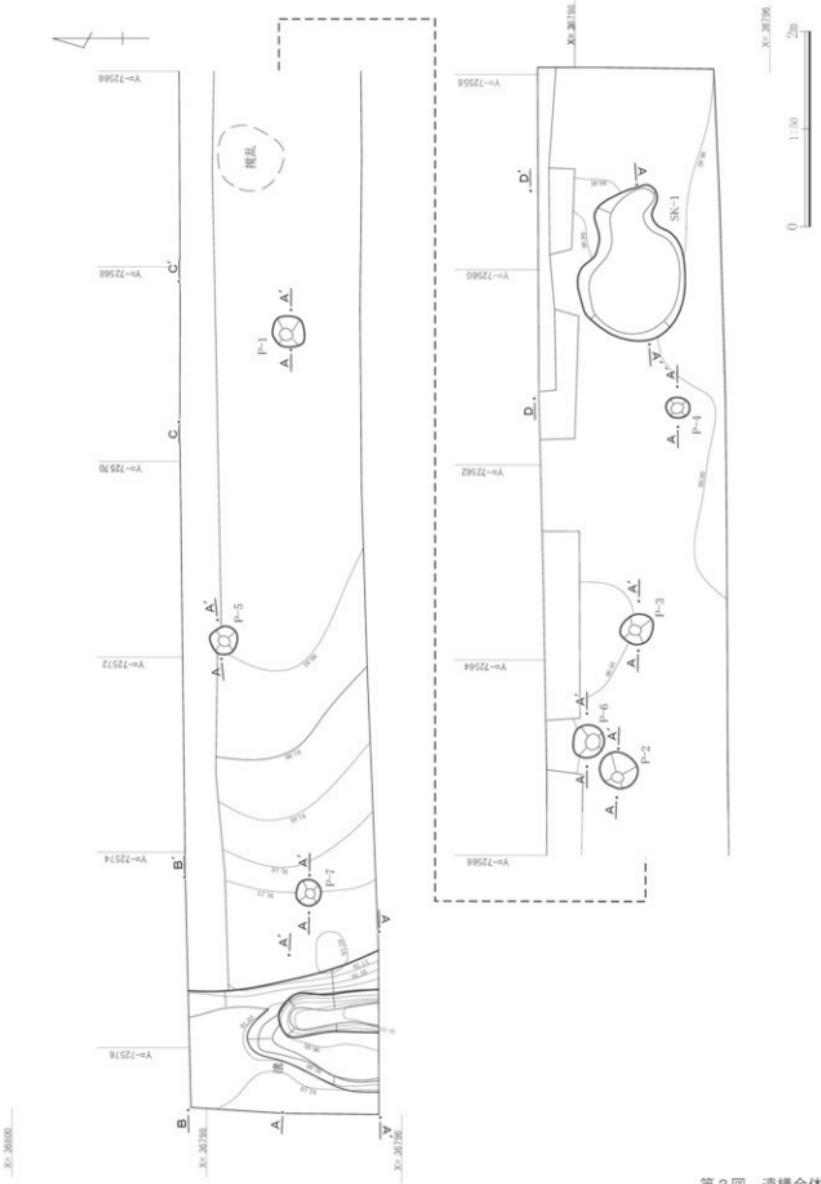
7基のPitのなかで、Pit1、Pit2、Pit3は、セクション図および写真にあるとおり、掘り方内側に暗褐色土がリング状に充填して作られていることが共通し、構築方法の類似性を指摘することができる。

(3) 主な遺物

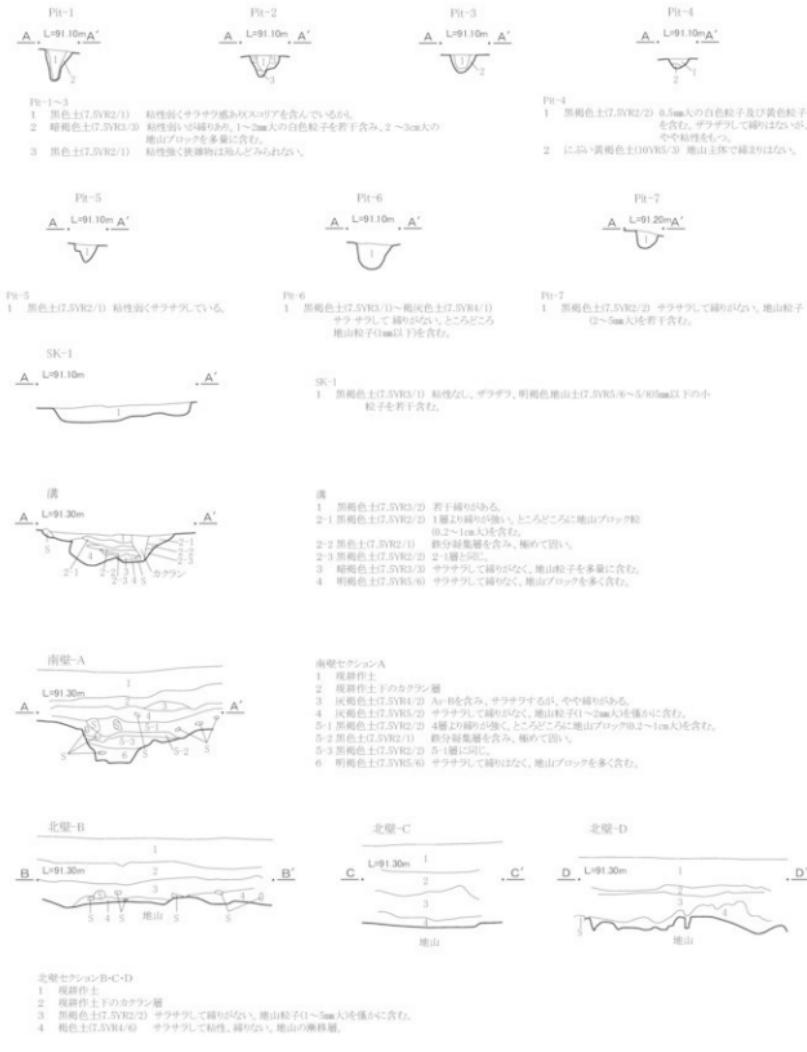
今回の調査では小破片の須恵器、土師器片が数点出土しただけであり、それら遺物の編年観も幅のあるもので、検出した遺構の時期を決定するに足るものではなかった。

(4) まとめ

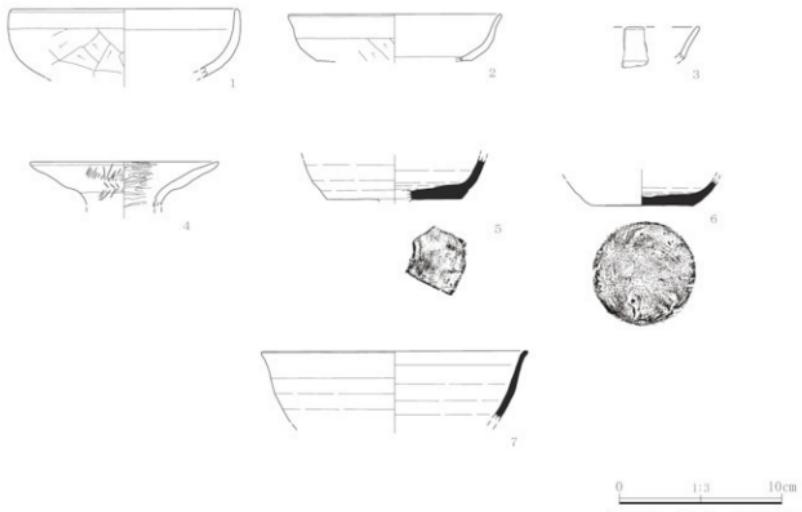
今回の調査は、小面積の実施であり検出した遺構、遺物の量も限られたものであったため、明確な時期を把握できるものではなかった。しかし、周辺には微地形の変化に伴う集落、生産遺跡が多数確認されており、本遺跡でも柱穴などが確認できたことから、わずかな微高地に古代の生活が営まれたものと想定できる。



第2図 遺構全体図



第3図 遺構断面図



第4図 1トレ 出土遺物

第2表 遺物観察表

1トレ	器種	() :復元値, [] :残存値		成・整形技法の特徴他	写真
		法量(cm)	①残存 ②色調		
1	土師器 环	口径 (14.2) 器高 [4.2] 底径 -	①破片 ②橙色	体部 滲曲、口縁 直立。 外面 体部鋸削り、口縁部横拂で。 内面 体部鋸拂で、口縁部横拂で。	
2	土師器 环	口径 (13.15) 器高 [2.8] 底径 (9.5)	①破片 ②明赤褐色	外面 底～体部鋸削り、口縁部横拂で。 内面 底～体部鋸拂で、口縁部横拂で。 底部 平底、体部 滲曲、口縁部外傾。	
3	土師器 环	口径 (14.0) 器高 [1.8] 底径 -	①破片 ②にぶい橙色	外面 体部鋸削り、口縁部横拂で。 内面 体部鋸拂で、口縁部横拂で。	
4	土師器 小型壺	口径 (11.6) 器高 [2.6] 底径 -	①口縁部破片 ②橙色	口縁部 短くハの字に開く。 外面 鋸磨き、擦で。 内面 鋸磨き、擦で。	
5	須恵器 环	口径 (8.8) 器高 [2.4] 底径 -	①破片 ②にぶい橙色	外面 体部輪轍調整。 内面 底～体部輪轍調整。 底部 半底、体部 滲曲。	PL-13
6	須恵器 环	口径 - 器高 [1.7] 底径 6.3	①底部破片 ②灰白色	外面 底部回転糸切り、体部一部拂で。 内面 底～体部輪轍調整。 底部 平底。体部 滲曲。	PL-14
7	須恵器 环	口径 16.4 器高 [4.3] 底径 -	①破片 ②灰白色	外面 体部輪轍調整、口縁部横拂で。 内面 体部輪轍調整、口縁部横拂で。 底部 やや直線的に滲曲。口縁部外傾。	



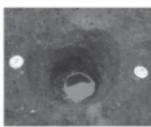
1 調査区全景(東より)



2 SK-1全景(東上り)



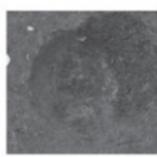
3 Pit1 確認面



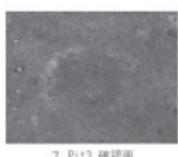
4 Pit1 全景



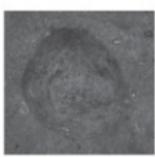
5 Pit2 確認面



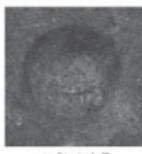
6 Pit2 全景



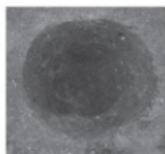
7 Pit3 確認面



8 Pit3 全景



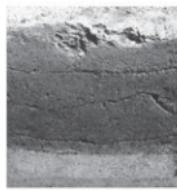
9 Pit4 全景



10 Pit7 全景



11 南壁セクションA(北より)



12 北壁セクションC(南より)



13 Iトレ-5



14 Iトレ-6

報告書抄録

ふりがな	えぎひがしまえおきいせき						
書名	江木東前沖遺跡						
副書名	城東土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘報告書						
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第401集						
編著者名	金子智一・田辺芳昭						
編集機関	高崎市教育委員会						
所在地	群馬県高崎市高松町 35 番地 1						
発行年月日	平成 30 年 3 月 26 日						
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				調査原因
えぎひがしまえおきいせき 江木東前沖遺跡	群馬県 高崎市 江木町字 東前 沖 1-4	102024	693	36° 19' 44"	139° 01' 30"	2017.04.01 ～ 2018.03.31	37 土地区画整理事業に伴う道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
江木東前沖遺跡	生活	古代	柱穴	須恵器、土師器			なし

高崎市文化財調査報告書第 401 集

江木東前沖遺跡

城東土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

印刷・発行日 平成 30 年 3 月 26 日

編集・発行 高崎市教育委員会

群馬県高崎市高松町 35 番地 1

印刷 荒瀬印刷株式会社
